

安佐北区可部のNPO

廃棄食品を無料提供

フードバンクの輪広がる



企業から寄付されたカット野菜の切れ端をチェックする原田理事長（左）とNPOのメンバー

衛生上問題がない廃棄食品を集めて福祉施設などに無料提供するNPO法人「あいあいねっと」（広島市安佐北区可部）のフードバンク事業が好調だ。協力企業数は当初の4倍以上、提供先の施設・団体数も1.5倍に増えた。9月3日には広島市中区でシンポジウムを開く。

（有岡英俊）

協力31社 当初の4倍



廃棄食品を有効活用し、低価格で食事を提供するまめnanレストラン

NPOは2008年3月、地元の管理栄養士や医師たちで発足。カット野菜の切れ端のほか、外箱の破損や内

容量の不足などを理由に破棄される食品を回収し、事務所で一時的保管。作業所や生活困難者の支援団体に無償配布している。

活動1年目に7社だった食品メーカーなど協力企業は現在31社。食品の提供先も16施設・団体が24カ所に拡大した。精神障害者を就労支援するNPO法人オレンジハウス（安佐北区）は毎週、野菜やゆでめんの提供を受け

る。作業所利用者への昼食として活用しており、飯田勉理事長（77）は「低収入でやりくりしている利用者の支えになっている」と感謝する。

事務所週2日営業する「まめnanレストラン」は、寄付された食材を調理して安価で提供。食事作りが困難なお年寄りたちが1日25人ほど利用し、交流の場にもなっている。原田佳子理事長（59）は「フードバンクは支え合いの地域を構築する取り組みになる。もっと活動を広げていきたい」としている。

シンポジウムは午後1時から中国電力本社2階（中区）で開催。国内外のフードバンクの現状に詳しいジャーナリストの大原悦子さんの講演やあいあいねっとの活動報告、パネルディスカッションがある。入場無料。あいあいねっと ☎082（819）3023。